

授業概要

本授業は、3年次、及び4年次の春期末までの2学年にまたがる授業である。

- 3年次の介護等体験実習、4年次の教育実習に向けて
実習に取り組むための準備を行う。実習の事前になすべきことを確認し、実習がより有意義なものになることを目指す。
- 3年次の介護等体験実習、4年次の教育実習を終えて
各実習後は、実習を振り返ることで教職に対する理解を深める。なお、高等学校の免許のみ取得する場合でも、介護等体験に関わる授業を欠席することは認められない。
授業実施日の具体的な日程については第1回目の授業時に示す。

授業計画

第1回	実習全般に対する理解と4年次の教育実習校への内諾依頼の指導
第2回	特別支援学校実習に向けての事前指導
第3回	社会福祉施設における介護実習に向けての事前指導
第4回	社会福祉施設での実習体験の報告会と反省、特別支援学校実習の事前指導
第5回	特別支援学校での実習体験の報告会と反省
第6回	教育実習での参観実習の方法①
第7回	教育実習での参観実習の方法②
第8回	介護等体験実習全般の事後指導 「実習ノート」提出
第9回	教職課程における実習の意義についての確認
第10回	「実習の手引き」の内容確認と実習記録の書き方①
第11回	「実習の手引き」の内容確認と実習記録の書き方②
第12回	校務分掌の確認・学習指導要領の各「領域」の確認
第13回	実習報告会
第14回	実習レポートの作成
第15回	実習レポートを踏まえた生徒指導・学習指導の再点検
第16回	実習全般のまとめ 実習記録の返却

到達目標

事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。事後指導では自らの実習経験を客観的に分析し、課題を明確にする。明確になった課題を教職実践演習での学びにつなげる。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。授業日、授業教室等については、教員・保育士養成センターの掲示で確認すること。

予習・復習

- 予習：各回における、「実習の手引き」、学習指導要領、生徒指導提要の該当箇所を精読する。
- 復習：毎回の授業で出題された課題を確認する。

評価方法

受講態度 50%・提出物の内容 10%・実習記録及び介護等体験記録ノートの内容 40%を基本とし、総合的な観点から評価を行う。

教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。評価方法の詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

「介護等体験の手引き」「教育実習の手引き」「介護等体験記録ノート」「教育実習記録」
(いずれも授業時に配布する)